

特集

これからの看護教育
コンセプトベースド・アプローチ

アメリカにおける基礎教育改革——コンセプトベースド・カリキュラム 岩間恵子

「概念基盤」アプローチの活用と学習内容：“Less is more!”

津波古澄子・Jean Foret Giddens・宮武綾音

現行看護基礎教育での「概念基盤」アプローチの活用

津波古澄子・宮武綾音

コンセプトにもとづいた事例作成の狙いと意図 奥裕美

コンセプトにもとづいた授業の狙いと意図 三浦友理子

【焦点】

看護教育にこそ有効なブレFD

【対談】教員としてのアイデンティティ確立とブレFD 奥山葉子・大串晃弘

【連載】

看護に恋した哲学者と読む ベナーがわかる！腑に落ちる！・8

榊原哲也

ティーチング・ポートフォリオ作成講座・9 栗田佳代子・吉田壘

NとEとLGBTQ・9 藤井ひろみ

つくって発見！ 美術解剖学の魅力・12 阿久津裕彦

編集後記

●「家族は「よいもの」とは限らない」。本特集で沼崎先生が書かれたこの一言が、家族のダイバーシティを考える際、実はもっとも考慮すべきことではないかと思えます。“標準”家族が絶対だという人は、戦前回帰主義者以外には、今はそういないでしょう。が、そんな、家族のダイバーシティに理解のある人でも、「家族はよいもの」という思い込みからは抜け出せていないかもしれません。●臨床時代、長期入院の高齢者を見舞わない家族を、ただ「冷たい」と思ったことはありませんか。その患者が家族に見舞われるのにふさわしいかどうかは、かなり深い部分の情報収集が必要になります。さらに言えば、かいがいく面倒をみている家族の心の中も、実際にはわかりません。ダイバーシティというのは、自分の想像以上に幅広いことを頭に入れて、教育に当たっていただきたいと思えます。

……大野

●連載がネタになった「どるも体」おかげ様で大変好評です。あるドクターはこの書籍を、何か正解となるモデル、枠があって、そこからのズレを考えるのではないところに、斬新さを読み解かれていました。●今回の特集テーマである「家族」も、正解からは考えられないテーマでしょう。たとえば、今年バレルムドールを受賞し話題になった是枝監督の「万引き家族」は、貧困のなか、ともすれば一見温かな家庭を描いていましたが、ほぼ全員、血縁関係にはないことが次第に明らかになっていきます。保健師さんや訪問看護師さんならば、近い境遇の「家庭」もご存知かもしれませんが、映像教材としても活用できるのでは、と思います。

……番匠

◎編集室ツイッター

http://twitter.com/KANGOKYOIKU

看護教育 第59巻 第11号 2018年11月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2018, Printed in Japan

(1部) 定価：本体1,500円＋税

2018年・年間購読料(増大号を含む12冊)：冊子版15,540円、冊子＋電子版／個人18,540円、電子版／個人15,540円(いずれも＋税、送料弊社負担)

発行：株式会社医学書院 代表者：金原 俊 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL：03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL：03-3817-5776 メールアドレス：kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当：番匠・大野・南部

本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/18/紙：¥500/電子：¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

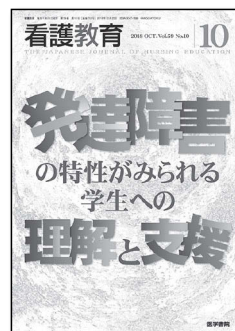
Vol.59 No.10

2018 年 10 月
特集

発達障害の特性がみられる 学生への理解と支援

高等教育の現場で障害のある学生はこの 10 年ではほぼ 6 倍に増加し、なかでも精神障害、発達障害を抱える学生が増加傾向にあります。大学の場合、文部科学省から「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」が義務付けられていますが、教育界全体をみても、支援体制は構築の途上にあります。特に発達障害、精神障害などの定義が変わりやすく、またグレーゾーンも多く含まれる障害の場合、診断書をもっていないケースもあるため、多くの看護教員が対応に疲労感、困難感を覚えています。もしかすると、こうした困難感は、看護教員が看護と教育のプロである、だから自分たちですべて対応しなければいけないという認識も一因なのかもしれません。本来、障害を抱える学生の支援においては、教員 1 人がそのすべての責務を担うことはあまりに大変です。また、看護士の資格を得れば終わりではなく、キャリア形成の目線も欠かせません。そして何より、学生本人が不在の支援という問題が多くあります。本特集では、発達障害支援の専門家もまじえた連携や当事者の声もふくめ、看護基礎教育における発達障害当事者支援のあり方について考えます。

- 【インタビュー】支援の誤解とポイント——発達障害支援の第一人者…高橋知音先生に聞く
- 【対応が難しい学習者】は、誰が、何に、困っているのか ……川上ちひろ
- 当事者からの言葉——ADHD、ASD の診断を受けた看護学生の悩み ……透子
「特性」をもつ看護師として学び、働き、みえてきたこと ……中島裕子
まとめサイト管理人が語るライフバックと支援 ……凹凸ちゃんねる管理人
- 看護教員が発達障害について学ぶ意義——書籍「大人の発達障害ってそういうことだったのか」から得られる知見 ……西田千夏
- 本人自身が困り事を発信できる支援に向けて——当事者を家族にもつ看護教員の視点 ……中尾幹子
- 【座談会】就職後も見えた、発達障害の学生のキャリア支援とは ……川上ちひろ／相馬良子(仮名)／松野友美／堀田亮



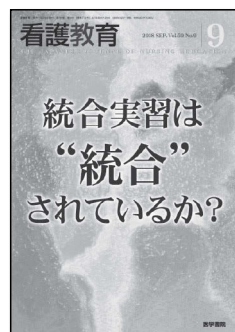
Vol.59 No.9

2018 年 9 月
特集

統合実習は “統合”されているか？

2009 年のカリキュラム改正で取り入れられた「統合分野」。文字どおり専門を“統合”することを目的として設けられました。統合実習は、その“統合”の総括として位置づけられていると思われます。実習は、それまで座学や演習で学んできたことを、実際の現場で体験・実施するもの。統合実習では、それら領域別実習の体験を統合することが求められています。実際ここで行われている「夜間実習」や「複数受け持ち実習」は、学びを“統合”しなくてはできないという前提で行われていると思われますが、果たしてそれは、本当に実習を“統合”したものになっているのでしょうか。本特集は、以前に比べ学生が実際に行える範囲が狭くなる傾向にある実習を“統合”するとはどういうことかをあらためて考え直し、その工夫例を紹介することにより、充実した統合実習の実践につなげていただきたいと願っています。ゼネラリストである看護師には、さまざまな“統合”力が期待されます。統合実習を効果的に活用し、その力を育んでいただきたいと思います。

- 【「統合実習」の内容と発展を振り返る……大島弓子
- 統合実習で何を“統合”するか——探究をとおして学生が学びを統合するということ……水戸優子
- 学生チームによる看護実践が導く統合……宮芝智子
- 継続する看護をリアルに学ぶ「夜間実習」で実習を統合する……平塚厚子
- 専門学校で行う、臨床現場でチームとして学ぶ統合実習……渥美美保



【2018 年 8 月号 (Vol.59 No.8)】

実習指導 虎の巻

【2018 年 7 月号 (Vol.59 No.7)】

主体性を育む「問いづくり」

【2018 年 6 月号 (Vol.59 No.6)】

身体拘束から考える
基礎教育と臨床の関係

【2018 年 5 月号 (Vol.59 No.5)】

授業にゲームを

【2018 年 4 月号 (Vol.59 No.4)】

問題解決志向に疲れたら……

【2018 年 3 月号 (Vol.59 No.3)】

私たちのストレスケア

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2016 年 9 月号 (Vol. 57, No. 9) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.taabook.com/>)
- 2016 年 10 月号 (Vol. 57, No.10) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。